

世界で活躍するための英語力

J PREP 齊藤塾

海外留学・東大、その上をめざすために 中高生が受けるべき英語教育とは？

2020年度の大学入試改革をにらみ、中高一貫進学校の英語の先生たちが大勢授業見学に来てくる新進気鋭の英語塾がある。東京・自由が丘と山形・酒田市に教室を置く、「J PREP 齊藤塾」だ。ここではどのような指導が行われているのだろうか。政治学者で元イェール大学政治学助教授、イェール大学の大学院生時代には衆議院議員の経験もあるという、英語塾の経営者としては異色の経歴を持つ代表の齊藤淳氏に話を伺った。

東大合格がゴールではなく 世界で活躍できる英語力を

アメリカの名門であるイェール大学の助教授として政治学を教えていた齊藤淳氏は、2012年に職を辞して帰国し、小中高生を対

象とした英語塾を開いた。それが、「J PREP 齊藤塾」だ。起業の理由を尋ねると、「帰国に際して、日本の大学で教鞭を執る選択肢もありました。しかし、今の日本は教育全体が曲がり角にあり、大きな問題の一つになっています。自分の経験を

活かして、社会にもっとも大きな形で貢献できるのは、小中高生の英語教育に携わることだと考えたのです」と齊藤氏は話す。自身が上智大学の大学院生だったころ、複数の塾で教えた経験があるというが、ここでは、大学で学んだ応用言語学というところの「成果の出る英語習得方法」とはかけ離れた指導方法が採用されていたという。

「多くの日本の高校や塾で設定している最高のゴールは東大合格。私はイェールで東大出身の官僚や会社員の方々に指導する立場にありましたが、東大を卒業して留学しても、英語力が足りずに苦労している人をたくさん見てきました。そもそも東大受験にゴールを設定するのが間違いなのです。そうではなく、世界で活躍できる英語力を意識して中高生を指導するべき。しかし、そういう教育機関はありません。そんな問題

が採用されていたという。」「多くの日本の高校や塾で設定している最高のゴールは東大合格。私はイェールで東大出身の官僚や会社員の方々に指導する立場にありましたが、東大を卒業して留学しても、英語力が足りずに苦労している人をたくさん見てきました。そもそも東大受験にゴールを設定するのが間違いなのです。そうではなく、世界で活躍できる英語力を意識して中高生を指導するべき。しかし、そういう教育機関はありません。そんな問題

が採用されていたという。」「多くの日本の高校や塾で設定している最高のゴールは東大合格。私はイェールで東大出身の官僚や会社員の方々に指導する立場にありましたが、東大を卒業して留学しても、英語力が足りずに苦労している人をたくさん見てきました。そもそも東大受験にゴールを設定するのが間違いなのです。そうではなく、世界で活躍できる英語力を意識して中高生を指導するべき。しかし、そういう教育機関はありません。そんな問題

意識を持っていたので、自分で塾を作ろうと思ったのです。世界で活躍できる英語力を身につければ、東大をはじめとする難関大学の英語の入試も楽に突破できるのですから。」「これまで日本の英語教育は、文法や訳読に偏重していた。一方、J PREPにおいては「話す」「書く」「読む」「聴く」の4技能に、「考



J PREP 齊藤塾 代表 齊藤 淳 氏

元イェール大学助教授。元衆議院議員。上智大学外国語学部英語学科卒業、イェール大学大学院政治学専攻博士課程修了、Ph.D。主著「自民党長期政権の政治経済学」により第54回日経経済図書文化賞受賞。2014年に発売された「世界の非ネイティブエリートがやっている英語勉強法」と「10歳から身につく問い、考え、表現する力」がベストセラーとなる。2015年度は、NHKラジオ「基礎英語2」で毎月、英作文指導の連載を担当。

える」を加えた授業が行われている。生徒のクラス分けは、レベル0(英語入門コース)からレベル7(留学準備または大学受験準備)までで、1クラスの定員は20名以下を徹底している。授業の大きな特徴は、生徒に意見を發表させ、みんなでディスカッションをすることだ。たとえばレベル3(中3程度。英検準1級相当の実力をめざす)のある日の授業では、漁業資源管理をテーマとする動画を英語で視聴した上で、公共財や国際政策協調のあり

方について考えさせる。「クロマグロの乱獲が国際的な問題になり、日本の漁業界が批判されています。この問題と、イルカの追い込み漁や捕鯨に関して日本が国際的に批判を浴びている理由を比較し、共通点と違いを分析しなさい」とこうした問いを投げかけ、英語で書かせ、発言させている。また、発音と作文に関しては、特にきめ細かく指導している。「英語と日本語の最も大きな違いは音。英語の音をきちんと把握でき

ることが、初心者は特に大切です。東大の2次試験にもリスニングがありますが、その最も効果的な対策は中学生の段階で正しい発音を身につけることです。今年4月からは、NHKラジオ「基礎英語2」の英作文指導を連載している齊藤氏。単なる和文英訳ではなく、英語の作法に則した指導が好評だ。J PREPではこの指導が毎週行われ、ネイティブ講師が添削して返却する地道な作業が繰り返されている。

師が採点。そして毎週、生徒一人ひとりに発音矯正のアドバイスが届くのだ。」「発音も作文も生徒にやらせて終わりではなく、講師が評価をしてやり直させなければ上達しません。細かい文法知識も、この繰り返しの中で定着させていきます。」「J PREPでは、現在46クラスを開講しているが、全クラスが満席状態。空席待ちの入塾希望者がたくさんいる状況だ。入塾申し込みが爆発的に増えた背景には、2020年度から予定されている大学入試改革がある。特に英語は、「話す」「書く」「読む」「聴く」の4技能がバランス良く問われるようになるが、知的な内容の英語を話し、書くことが求められる。その指導ができる指導者が不足している。そうした背景から、最近では教育委員会や学校から齊藤氏に寄せられる講演依頼が急増している。また、中高一貫校からJ PREPの最先端の英語教授法を視察に来るとい

J PREP式 語学指導法

1クラス20人以下

授業は厳しい選抜を突破したネイティブ講師、日本人講師、TA(ティーチング・アシスタント)の3人体制で行う。採点やフィードバックを担当する海外在住スタッフもいる。



良質なテキストを読む

世界史をテーマにした Civilization や E・H・カーの The Twenty Years' Crisis など良質な英文テキストを使い、「英語で学ぶ」授業をしている。



本格的な英作文の指導

留学したり、社会に出た時に、すぐに役立つ本格的なライティングを指導。優秀なネイティブ講師が丁寧に添削をする。



専用アプリで家庭学習

自宅では、専用アプリを搭載したタブレット端末を使い、発音、リスニング、スピーキングをトレーニング。発音の矯正などのフィードバックもある。

専用アプリを開発し 家庭学習メニューも提供

授業は週1回3時間だが、語学の習得には毎日のトレーニングが欠かせない。そこでJ PREPでは、家庭学習で利用できる音声課題提出アプリを開発。これをインストールしたタブレット端末では、音声練習用のメニューを利用した発音練習やスピーキング練習ができる。生徒は質問に答えたり話す訓練ができるほか、ボタン一つで音声練習の模様を収録した動画を送信でき、それを講

習得には毎日のトレーニングが欠かせない。そこでJ PREPでは、家庭学習で利用できる音声課題提出アプリを開発。これをインストールしたタブレット端末では、音声練習用のメニューを利用した発音練習やスピーキング練習ができる。生徒は質問に答えたり話す訓練ができるほか、ボタン一つで音声練習の模様を収録した動画を送信でき、それを講

習得には毎日のトレーニングが欠かせない。そこでJ PREPでは、家庭学習で利用できる音声課題提出アプリを開発。これをインストールしたタブレット端末では、音声練習用のメニューを利用した発音練習やスピーキング練習ができる。生徒は質問に答えたり話す訓練ができるほか、ボタン一つで音声練習の模様を収録した動画を送信でき、それを講



ネイティブ講師が、タブレットを使って英語論文を添削。